

分野 (2) 気管支ぜん息・COPD患者の日常生活の管理、指導に関する調査研究

研究課題名 : ③客観的指標によるアドヒアランスの評価

申請課題名 : 小児気管支ぜん息の自己管理支援に資する新しい客観的な
アドヒアランス評価指標の開発と確立に関する調査研究

調査研究代表者氏名 : 藤澤 隆夫

1. 評価軸別の評価

大変優れている(5点) 優れている(4点) 普通(3点) やや劣っている(2点) 劣っている(1点)

	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(1) 環境保健対策の推進への貢献度	3人	3人	0人	0人	0人	4.5
(2) 研究成果目標(目的)の達成度	3人	3人	0人	0人	0人	4.5
(3) 研究計画の妥当性	3人	2人	1人	0人	0人	4.3
(4) 内容の独自性	1人	5人	0人	0人	0人	4.2
(5) 社会・経済に対する貢献度	2人	4人	0人	0人	0人	4.3
個別評価平均						4.4

2. 総合評価

(1) 評価基準に沿った評価	3人	3人	0人	0人	0人	4.5
(2) 記述評価						
<ul style="list-style-type: none">・実用段階に入ったほぼ完成された研究である。・PAAQの結果を治療に活用するために、さらにその活用方法を考えることが必要である。・重要な研究。・validationも行われており、是非早期の英文化を期待する。・医師の評価と本法のスコアとの関連は全体としては良好とのことであるが、個々にみて解離の症例の分析も。・小児ぜん息患者のアドヒアランスの評価方法が確立されたようである。今後は、アドヒアランスの向上および維持が課題となる。・アドヒアランス質問票の作成手順は非常に適切であり、妥当性が高いものと評価される。・アドヒアランスの良・不良とコントロール及び予後との関係とその関係を修飾する要因の解析をさらに進めることを期待する。						